

卷頭の辭

廣岡勝治

滿洲國産業開發五箇年計畫は第三年度を迎えて建設最盛期に入ることになつたが、これに對し我が土木建設部門に於ても本年度は道路、飛行場、水電、河川等何れも建國以來の飛躍的繁忙ならざるはない、更に近來複雜緊迫の度を加ふる國際情勢、特に寸刻も監視を緩められね蘇聯に備ふる爲最近國境建設の議が進められるに至つてゐる、これら愈々緒に就かんとする大土木建設に備ふる爲當局は技術員の大量新採用を計畫中なるは勿論であるが、この大建設を成就する爲には單に人數の増加のみにて足れりとすることは出來ないのであつて、筆者は茲に我等建設擔當者の氣宇の一大躍進と相互一致團結の強化の必要を叫ぶ、

天下と云へば日本國內のみを意味した封建時代より七十數年後の今日世界の安定勢力に飛躍したのであるが我等國民の氣宇は常に新しき時態に後れてゐるの憾が多かつた、巷間好んで用ひられ「東洋一」なる言葉の如何に卑屈なることよ、世界一は固より望ましいが假にそれが世界二十五番目でも三十番目でも苟も順位をつけるならば「世界」を冠することにしたい、これは一例に過ぎないが我等の氣宇も常に世界を對象とするまでに雄大とならなければならぬ、この雄大なる氣宇があつて始めて眞の一一致團結の精神が起るのである、由來技術者も協力的態度に缺けてゐて人の計畫或は指導に對して無思慮な非難を浴せ又は小乘的に自己職分に熱を有する餘り無益なる對立をなすこと多かつたのは畢竟するに餘りにも島國的な氣宇の狹少に本づくものに外ならない、實に今日程我らが一致團結を必要とする時はないと思ふ、

さあれ千載一遇のこの躍進建設時代の大試練に堪え一層の勇健と飽くまでも科學的正確とを以て建設の聖業に邁進せんことを相誓ふは、この燐たる春光を仰いで立つ我等の一大歡喜でなければならない、